新建・寺子屋（モダニズムの研究）251　報告

近代建築を多角的に検討／**モダニズム建築文献再読；**　　2018.3.14

—藤森著『日本の近代建築』の分析—第 17 回　　話：三沢浩

日本の初期モダニズムとアントニン・レーモンド第12 回（スライドⅫ）

■　寺子屋 251は3人の参加で開催されました。

■　木造モダニズムの発見にはレーモンドの木造住宅や別荘建築が大きく影響を与えていますが、それ以外にも逓信省の木造郵便局など、木造の可能性をその基底にまでさかのぼって原理的に追求し、試行したものが見出されました。レーモンドが着目した軸組構法の近代性とその限界、例えば関東大震災で露呈した耐震性の問題などは、その解法に向けて多くの人たちの取り組みを今に伝えています。レーモンドのシザートラスを用いた教会建築や松村正恒の木造校舎は、その原理性を当時の西洋的な工学の科学性と日本の大工に代表される経験知を重ねたところの緊張感に直截的に表されているようです。

トラスやボルト締めといった西洋技術と日本の軸組構法の融合は、画一化する以前のモダニズムの豊かな可能性を保持していたように感じます。

高崎「井上邸」

日光「イタリー大使館別邸」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

新建・寺子屋（モダニズムの研究）251

2018 年 3 月 14 日（水）

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；

—藤森著『日本の近代建築（上、下）』の分析—第 17 回

日本の初期モダニズムとアントニン・レーモンド　第 12 回（スライドⅫ）　　話：三沢浩

１．前回のスライドへの補足

1）オーギュスト・ペレの作品のうち、都市計画（ル・アーブル）が欠けた

2）ベドジフ・フォイアシュタインの担当と思われる他の作品が不足

3）デ・ステイルのメンバーのうち、P.P.アウト、G.リートフェルトの他の作品の不足

4）F.L.ライトの作品にデ・ステイルが影響を受けた詳細が少ない

２．今回のスライドⅫのポイントについて（主なもの）

1）SD特別号の片寄り方がつかめない（‘30～‘50）

2）A.レーモンドの木造モダニズムの表現に片寄ってしまった

3）作品紹介でいくつかの欠落が見える（白井、今井、松村など）

4）初めて高崎の「井上邸」を見て気がついたこと

３．日大・大川グループの研究とは何であったか

1）3 年間の「建築知識」の発表に、木造を見出したことが貴重

2）それらを黒沢隆を含めて「木造モダニズム 1930－50」とした！

3）特に郵政（逓信関係）の「木造」をとり上げた功績は大きい

4）その後に連続する研究はなかったが・・・

4. ここでは、とり上げられたA.レーモンドの「木造モダニズム」をとり上げるつもり

1）「井上邸（1951）」より以前の「木造」について（現存するもの）

2）日光「トレッドソン邸（1931）」「イタリー大使館別邸（1928）」など

3）藤森著で「ツルピカ」といっている住宅の対岸にあるもの

4）その原点になるA.レーモンドの見付けたかった「軸組構法」

５．藤森の主張する「木造モダニズム」の日本独自のこと

1）直線の構造、柱と梁の直交の独自性

2）石造や煉瓦造にはない手法をレーモンドは見つけた

3）ただし、木造の「軸組構法」が耐震性のないことも気にしていた

次回　＜寺子屋 252＞　■近代建築を多角的に検討■モダニズム建築に関する著作再読

藤森照信著『日本の近代建築』の研究－第 18 回　　話：三沢浩

日本の初期モダニズムとアントニン・レーモンド　第 13 回

2018 年 4 月 18 日（第 3 水曜日定例）　PM 7：15～

場所：新宿区水道町 2-8 長島ビル2階（江戸川橋駅神楽坂駅徒歩5分）

会費：400 円　問合：大崎元（有)建築工房匠屋 VED03705@nifty.com